

9/9 土 - 10/22 日

Finnish Design 2017

日常を幸せにする、デザインの知恵。

100th Anniversary of Finland's Independence
フィンランド独立100周年記念

フィンランド・デザイン展



Oiva Toikka
オブジェ《バードリーヒポッコ(フクロウ)》
オイバ・トイッカ
1997年
イッタラ
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
© Designmuseo
Photo:Chikako Harada

府中市美術館

Fuchu Art Museum
〒183-0001 東京都府中市浅間町1-3
03(5777)8600(ハローダイヤル)

休館日=月曜日(9月18日、10月9日を除く)、9月19日、10月10日
主催=府中市美術館、日本経済新聞社/後援=フィンランド大使館、フィンランドセンター/特別協力=フィンランド政府観光局、日本フィンランド協会、アルテック、
イッタラ(フィスカース・グループ)、スキヤンデックス、タトル・モリ エイジエンツ、マリメッコ、ルック/協力=フィンエア、フィンエアカーゴ/協賛=大伸社/企画協力=キュレイターズ

開館時間=午前10時~午後5時(入場は4時30分まで)

協力=大伸社/企画協力=キュレイターズ

Akseli Gallen-Kallela

ルイス織ラグ《リュック(袋)》
アクセル・ガレン＝カレラ
1899年
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
© Designmuseo



Author Unknown

カップ&ソーサー
作者不詳
1870年
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
© Designmuseo



デザインの原点

1900年のパリ万国博覧会で、フィンランド館は数々の賞を受賞しました。伝統的な織物の大胆な柄や、家具や食器のシンプルで素朴な形。独立に向かって民族意識の高まるなか、古くからの工芸品にも新たな眼差しが注がれるようになります。こうして、フィンランド・デザインの原点が生まれたのです。

Walter Thomé, Karl Lindahl

椅子
ワルター・トーム、カール・リンダール
1903-04年
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
© Designmuseo
Photo: Chikako Harada



日本で愛される理由

マリメッコの生地、イッタラやアラビアの食器、アアルトの家具……フィンランド生まれの日用品は、日本で本当に人気です。今では日本人の暮らしにとけ込んでいると言ってもよいかもしれません。なかにはフィンランドのものとは知らずに使っている方もいらっしゃることでしょ。では、なぜ遠く離れた国フィンランドのデザインが、これほど私たちの心をとらえるのでしょうか。

フィンランド・デザインの核心にあるもの、それは「人間と自然との調和」の理念です。天然素材を活かすことはもちろん、例えば、木の葉型の木皿《レヘティ》、しづくをイメージしたガラス器《カステヘルミ》など、デザインの中には自然があります。極寒の冬や夏の白夜など、時に厳しい環境の中でも、森の恵みを大切に生きているフィンランドの人々の生き方そのものとも言えるかもしれません。実は、こうした人と自然の調和を重んじる自然観は欧米諸国では珍しく、むしろ私たち日本人の伝統に親しいものでしょう。さらに、「すべての人の生活、社会に寄り添うデザイン」

を目指した日用品は、流行に左右されることなく人々の日常を彩り、長く愛され続けています。家族とともに年を重ねるアアルトの家具、食卓を楽しみ飾るカイ・フランクの食器、赤ちゃんからおばあちゃんまで似合うマリメッコのドレス。私たちは、デザインを通して、目の前の生活、ささやかな幸せを大切にしているのかもしれない。

フィンランド独立100年を記念する本展では、19世紀末の工芸品から今日第一線で活躍するデザイナーまで、フィンランド・デザインの歩みのすべてをご覧いただけます。実際に名作の椅子に座れるコーナー、気軽にご参加いただけるミニワークショップなど、楽しい企画もご用意しております。緑豊かな都立府中の森公園に立地する美術館で、フィンランドの暮らしを感じていただければ幸いです。

世界でもっとも美しいオブジェ

1951年、第9回ミラノ・トリエンナーレで、フィンランド・デザインは、6つの大賞をはじめ多数の賞に輝き、他国を圧倒します。そして、これを契機に、世界的に注目されるようになったのです。この時、タピオ・ウィルカラの《レヘティ》も、「世界でもっとも美しいオブジェ」と称され、大賞を受賞しました。

Tapio Wirkkala

オブジェ《レヘティ(葉)》
タピオ・ウィルカラ
1951年
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
© Designmuseo



椅子《41 アームチェア バイモ》
アルヴァ・アアルト
1931-32年
アルテック
© Artek



Kaj Franck

テーブルウェア《ティーマ》シリーズ
カイ・フランク
1952年
イッタラ
© FISKARS



「ディナーセットを粉砕せよ！」

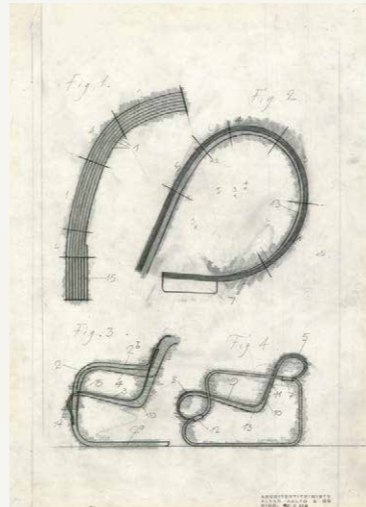
用途ごとに器を使い分けるヨーロッパの伝統的なディナーセット。その固定概念を覆したのがカイ・フランクです。余分な装飾を排したシンプルな色と形、用途を限定しないデザイン。1953年に発売された《キルタ》シリーズは、食卓に革命をもたらしました。1981年、色や素材に変更を加え、《ティーマ》シリーズとして復刻され、現在も世界中で愛されています。

テーブルウェア《キルタ》シリーズ
カイ・フランク
1952-53年
アラビア
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
© Designmuseo



Alvar Aalto

図面《41 アームチェア バイモ、42 アームチェア》
アルヴァ・アアルト
アルヴァ・アアルト美術館蔵
© Alvar Aalto Foundation, Alvar Aalto Museum collections



椅子《スツール 60》
アルヴァ・アアルト
1933年
アルテック
© Artek

人間が中心にあるモダニズム

アルヴァ・アアルトは、モダニズムを代表する建築家です。しかし、機能性や合理性を重んじるモダニズム建築の多くが、どこか硬質で冷たい印象を与えるのに対して、アアルトの作品には温もりが感じられます。「標準化されたプロダクトは、完成されたものであってはならない。それはむしろ、人間と、人間を巡るさまざまな状況によって、そのフォルムが柔軟に変えられるよう、デザインされるべきである」という言葉の通り、人の暮らしを優先したものの作りが、デザインに温かさを生んでいるのです。

小さなマリちゃんのドレス—マリメッコ

フィンランド・デザインを代表するマリメッコ。マリメッコとは「マリちゃんのドレス」という意味です。第二次世界大戦後まもなく、敗戦国フィンランドに登場した、明るい色と鮮烈なデザインのドレスは、新しい時代の幕開けを予感させました。またたく間に国際的なファッションブランドとなりますが、創設者のアルミ・ラティアは、常に、流行ではなく、コンセプトを、さらに人々のライフスタイルをデザインすることを目指しました。



Maija Isola

生地《クニッコ(ケツの花)》
マイヤ・イソラ
1964年
マリメッコ
© Marimekko

生地《ピエニ ヲニッコ(ケツの花)》
ドレス《アグザ》
生地デザイン:マイヤ・イソラ
1964年



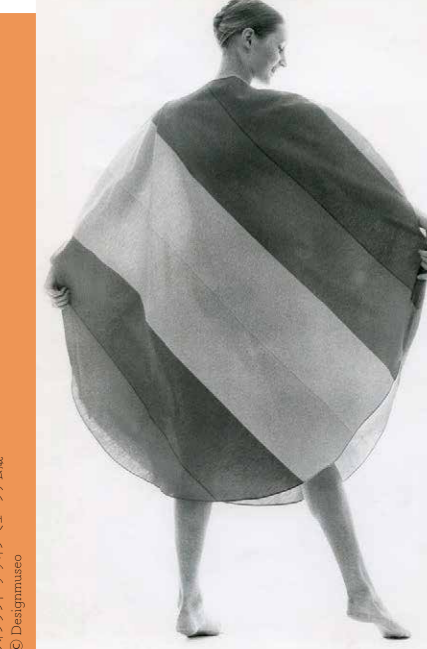
Vuokko Eskolin-Nurmesniemi

生地《リノ 47/12》
ドレス《スカルネンタリ (GB)》
ワルコ・エスキリン＝ヌルメスキエニ
1964年
マリメッコ
© Designmuseo



Annika Rimala

生地《クイイダス(オアシス)》
ドレス《モンローボー》
生地デザイン:アンニカ・リマラ
1967年
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
© Designmuseo



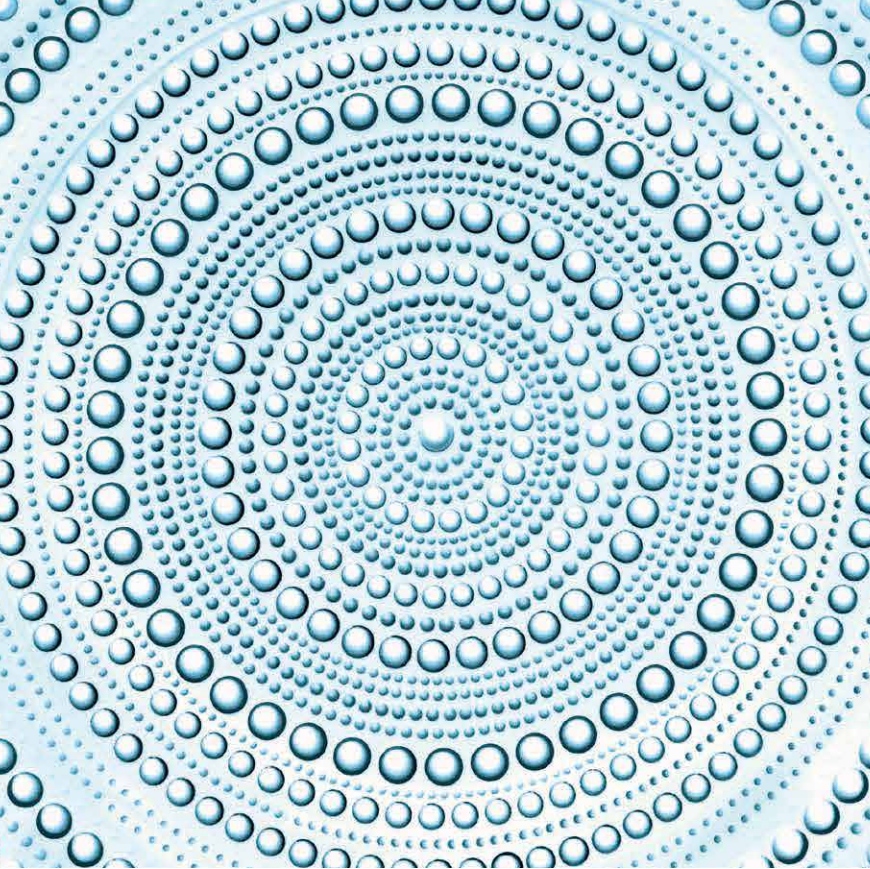
暮らしの中にムーミン哲学を

自然とともに暮らし、悩みや迷いを抱えつつも、自由と孤独を愛して生きていく。ムーミンの物語には、フィンランドの人々の生き方そのものが表れているように感じられます。ムーミンのマグカップのデザイナー、トーベ・スロッテは、「日々の暮らしのなかで、ムーミン哲学を感じられる」デザインを心がけているといいます。

Tove Slotte

マグカップ《夏至》とその原案と資料
トーベ・スロッテ
2014-16年
アラビア
© FISKARS
© Moomin Characters™
Photo: Chikako Harada





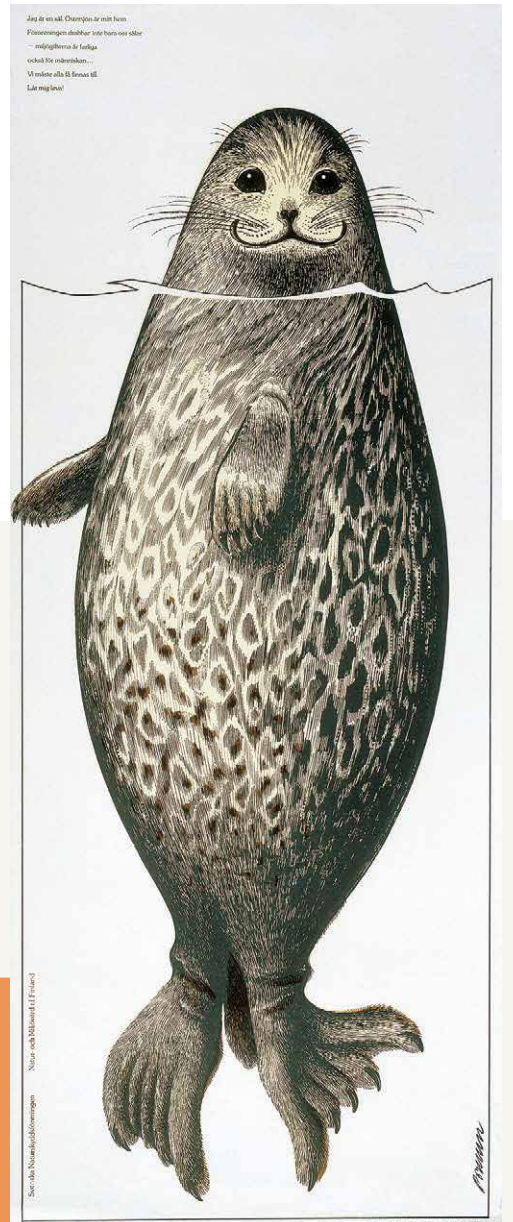
Eero Aarnio

椅子《ミニボニー》
 エーロ・アールニオ
 2011年
 ナゼロ蔵
 © Eero Aarnio



Oiva Toikka

プレート《カステヘルミ(しずく)》(部分)
 オイバ・トイッカ
 1964年
 イッタラ
 © FISKARS



Jag är en till. Därigenom är min form
 Föremången älskade, men bara en stift
 ... andäggförmig är fastlag
 också för underhållning...
 Vi måste alla få förtäras till
 Låt mig leva!

Seo the Novemburshörsninggen Natur och Kulturarv i Finland
 Erik Bruun



Eero Aarnio

椅子《ボールチェア》
 エーロ・アールニオ
 1963年
 ナゼロ蔵
 © Eero Aarnio

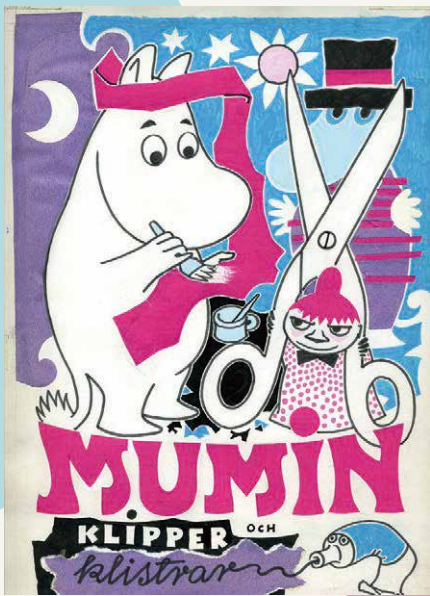


Fujiwo Ishimoto

レリーフ《フラワー》
 石本藤雄
 2009年
 スコープ蔵
 © Fujiwo Ishimoto

Erik Bruun

ポスター原画《サイマーワモンザラシ》(自然保護協会のポスター)
 エリック・ブルーン
 1974年
 作家蔵
 © Erik Bruun

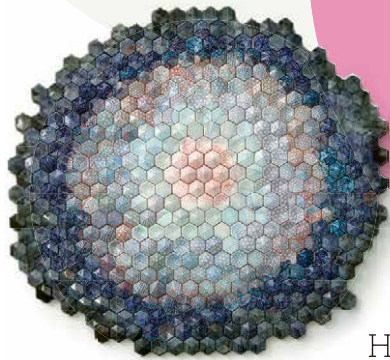


Tove Jansson

原画 ぬりえ帳表紙『ムミンとはさみとりの』
トベ・ヤンソン
ムミン・キャラクターズ社蔵
© Moomin Characters™

Oiva Toikka

《バード》シリーズ
オイバ・トイッカ
1991-2001年
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
© Designmuseo
Photo: Chikako Harada



Heini Riitahuhta

レリーフ《キェルマンクッカ(寒花)》
ヘイニ・リータフタ
2015年
作家蔵
© Heini Riitahuhta
Photo: Chikako Harada



テーブルウェア《ルノ》シリーズ
ヘイニ・リータフタ
2009年
アラビア
© FISKARS



交通案内

- 京王線東府中駅北口から
 - ◎ 徒歩17分
 - ◎ ちゅうバス府中駅行き「府中市美術館」①下車すぐ [8:05から毎時30分間隔で運行・100円]
- 京王線府中駅からバス
 - ◎ ちゅうバス多磨町行き「府中市美術館」①下車すぐ [8:00から毎時30分間隔で運行・100円]
 - ◎ 武蔵小金井駅南口行き(一本木経由) 「天神町二丁目」②下車すぐ
 - ◎ 武蔵小金井駅南口行き(学園通り経由) 「天神町幼稚園」③下車徒歩8分
 - ◎ 国分寺駅南口行き(東八道路経由) 「天神町幼稚園」③下車徒歩8分
- JR中央線国分寺南口駅からバス
 - ◎ 府中駅行き(一本木経由)「一本木」④下車すぐ
 - ◎ 府中駅行き(学園通り経由) 「天神町幼稚園」⑤下車徒歩8分
- JR中央線武蔵小金井駅南口からバス
 - ◎ 府中駅行き(東八道路経由) 「天神町幼稚園」⑤下車徒歩8分
- お車の場合
 - ◎ 美術館近くの府中市臨時駐車場 [無料・60台収容]をご利用ください。

府中市美術館 Fuchu Art Museum

〒183-0001 東京都府中市浅間町1-3
ハローダイヤル 03(5777)8600
本展公式HP <http://finnish-design2017.exhn.jp>

同時開催 明治・大正・昭和の洋画 小特集 江戸時代の絵画 牛島憲之記念館「画風の展開」

次回の展覧会 「正宗徳三郎」展 11月3日(金・祝) - 12月28日(木)

観覧料	一般	高校生/大学生	小学生/中学生
当日券	900円	450円	200円
前売券/団体券	720円	360円	160円

●10月8日(日)は開館記念無料観覧日です。当日は混雑が予想されます。混雑時には入場制限を行いますので、あらかじめご了承ください。●前売り券は、9月8日まで府中市美術館、セブン-イレブン、ローソン、ミニストップなどで販売します。●未就学児および身体障害者手帳をお持ちの方は無料。●常設展もご覧いただけます。●府中市内の小中学生は「府中っ子学びのバスポート」で無料。